

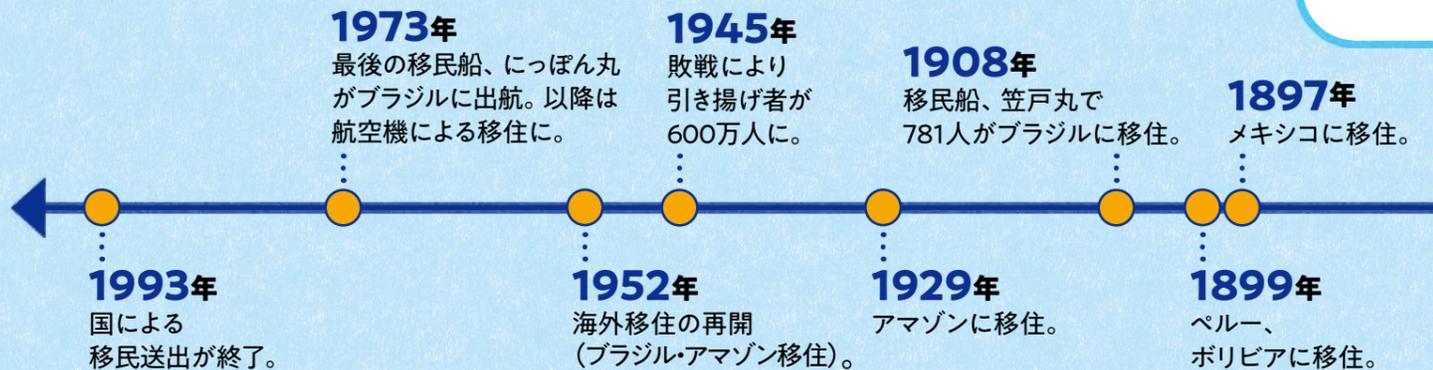
# 日系社会と ともに歩む

日本から見れば地球の反対側に位置する中南米。遠く離れた国々だがそこには歴史的に深いつながりがあり、日本と信頼関係を築いてきた。

文●小西威史

## 中南米と日本のおもな移住の歴史

日本の海外移住の歴史は1868年のハワイ(当時は独立国)がはじまり、19世紀末から中南米への移住が始まった。



出展：外務省「日本と中南米」をもとに作成。

約120年前から始まった中南米への集団移民

ブラジルには「ジャポネス・ガランチード」という言葉がある。ポルトガル語で「日本人は信頼できる」という意味だ。

この信頼感は中南米の各国に共通している。中南米には親日の国が多く、日本の企業が進出するとき、観光で訪ねるときにも、日本人を好意的に受け入れてくれる。その礎を築いたのが、19世紀末(明治30年代ごろ)から始まった中南米への日本人移住者たちだ。今ではその子孫の6世も誕生し、中南米全体に200万人を超える日系人がいるといわれている。

日本から海外への集団移民は明治維新が起きた1868(明治元年)年、海外で稼いで故郷で一旗揚げようという約150人がハワイへ渡り、サトウキビ耕地の労働者となったのが皮切りだ。その後、中南米が移住先となったのは、1862年のアメリカでのリンカーンによる有名な奴隷解放宣言に続く、中南米各国での奴隷解放

の動きがきっかけだ。コーヒーなどの大規模農場では労働者不足が起き、人手が必要とされていた。

移民の流れはその後、歴史的な出来事とともに変遷していく。関東大震災(1923年)の後に罹災者に対する移住が奨励され、第2次世界大戦後は1952年から移民事業が再開され、多くの日本人が中南米へ渡った。ただ、夢に描いた暮らしをすぐに得られなかったわけではない。とくに明治期に移住した日本人たちは、低賃金労働を強いられ、未開の原始林の開拓に悪戦苦闘したり、マラリアなどの風土病に悩まされたりした。そんななかでも、野菜栽培を始めた日系人が、農業協同組合を立ち上げて野菜の流通を広げていった結果、肉食が中心であった現地の人々の食生活改善に資するなどして現地社会に貢献していった。

また、日本が経済成長を果たした1980年代ごろからは、人手不足の日本にブラジルから日系人が働きに来るようになった。中南米と日本は歴史を共有し、たがいに助け合ってきた間柄だ。

今日では中南米の多くが経済的に中進国以上となった。先人が築いてきた信頼関係を生かし、パートナーとして経済発展や環境問題にも取り組む時代となっている。

## 中南米全体の日系人数 約213万人

海外移住者や日系人は、北米や中南米を中心に全世界で約360万人(推定)以上。そのうち中南米には約213万人(推定)が暮らしている。

